

公益社団法人日本天文学会 代議員総会議事録

日 時：2015年5月31日（日） 13:00-15:00

場 所：東京八重洲ホール2階201号室

出席代議員：市川、井上、奥村、海部、河合、田村、半田、福井、吉川、渡部、縣、犬塚、太田、櫻井、佐藤、杉山、寺澤、林、松下、百瀬、山田、吉田（直紀）（以上22名、委任状11名）

欠席代議員：梅村、岡村、小久保、柴田、常田、馬場、望月、吉田（道利）、土居、中川、牧島、嶺重、観山（以上13名）

また、中村・本原庶務理事、松尾会計理事、西野事務長、黒岩職員、および佐藤次期事務長が出席した。

櫻井会長と奥村・山田副会長は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席代議員が22名、議長委任状が11件、合計37件で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。前交代議員総会（2015年3月19日）の議事録が確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：櫻井 隆

署名人：櫻井 隆

II. 報告

II-1 理事会（2015年5月10日）報告（中村）

2014年度事業報告書と決算書が承認されたことが報告された。2017年秋季年会、2018年春季年会の開催地を決定した。秋の年会の会員全体集会で公表する。名古屋大学宇宙地球環境研究所へのサポートレターを出すことを承認した。国際光年協議会会員になるとともに、推進パートナーとして登録することを承認した。

II-2 監査報告（資料3、中村）

2015年4月27日に2014年度の監査が行われ、問題ないことが確認された。

II-3 学術会議報告（山田）

天文学宇宙物理学分科会の第2回会議が5月15日に行われた。大学教育質保障のためのシンポジウムが7月18日に東京大学本郷キャンパスで行われる。今後の計算機科学の展開のための Cosmo Simulator 構想が梅村氏より紹介された。光赤外将来計画の状況が SPICA 計画について尾中氏より、光赤天連の将来計画策定について川端氏より報告された。今後の大型・中型計画の検討について、23期の終わりまでにマスタープランのアップデートがされるので、それに向けて内容を固めていく必要がある。特に、中規模計画をサポートするための取りまとめを進めるべきである。共同利用機関の報告がなされた。

II-4 IAU 報告（資料4・配布資料、山田）

5月18日にIAU分科会が開催された。IAU新会員は最終的に64名を推薦することになった。8月のIAU総会では谷口氏が invited discourse の講演者に選ばれた。2000名が新 commission の登録を行った模様。

IAUの参加費の2%の値上げとなる。またIAU総会に、ハワイ島でのTMT反対運動が影響

する可能性がある。トラブルを起こさないように注意してほしい。具体的には、反対運動家がいたとしても相手を尊重し、口論などはしないでほしい。これに関連して、林代議員より TMT 建設と反対運動、および対応の現状が説明された。

II-5 早川基金報告（資料 5、中村）

2014 年度は申請数 50 件、採択 19 件であった。支給額を増やし、渡航費と滞在費両方をサポートしており、総額 460 万円の支給となっている。

III. 議題

III-1 推薦委員会の承認（資料 7、中村）

次期推薦委員会委員が全員賛成で承認された。

III-2 公益社団法人日本天文学会 2014 年度事業報告書の承認（資料 8、中村）

2014 年度の事業内容が説明された。これに対し、ジュニアセッションは先駆的な活動であり重要である。高校生のモチベーションになっている。ただ、日本天文学会の規模からすると大きくなりすぎつつあり、開催地への負担が非常に重くなっている。どのように続けてゆくのかはよく考え、年会事業を圧迫しないよう、今後の運営を考える必要があるという意見が複数なされた。以上の議論ののち、全員賛成で承認された。

III-3 公益社団法人日本天文学会 2014 年度決算書の承認（資料 9、松尾）

2014 年度の決算の内容が説明された。とくに欧文事業については、JSPS からの補助金（およそ 700 万円）がなくなったにもかかわらず、印刷経費の圧縮が効いて、以前とほぼ同じ収支となった。研究奨励賞などの残額が少なくなっており、このままだとあと数年で枯渇する。積極的な寄付をお願いしたい。最終的に、690 万円の黒字となっている。これに対し、黒字額が大きくなった理由は特別な理由があるのかという質問がなされた。これに対し、各事業で 100 万円程度の収支改善があったためであり、今の予算構造であれば定常的に黒字となる。年会費の引き下げも視野に入っていると思われる。また、月報事業の赤字が大きいが、電子化によって圧縮できるのかという質問がなされた。これに対し、月報の収入に会費収入が入っていないので、注意する必要があることが指摘された。以上の説明と議論ののち全員賛成で承認された。

III-4 2015・2016 年度理事及び監事選任の件

2015 年 1 月 25 日の代議員総会において承認された理事および監事候補者について全出席者の賛成が得られ、候補者全員を選任することが承認された。選任された理事及び監事は以下の通り。

理事	市川 隆	理事	青木 和光
理事	望月 優子	理事	佐藤 文衛
理事	半田 利弘	理事	山岡 均
理事	山下 卓也	理事	須佐 元
理事	中村 文隆	理事	政井 邦昭
理事	柴田 克典	理事	谷口 義明
理事	熊谷 紫麻見	監事	松原英雄
理事	嶋作 一大	監事	渡邊 鉄哉

IV. その他

IV-1 「天文教育普及賞」の提案について（資料 10、海部）

研究だけでなく、教育普及が天文学の進歩に重要な役割を占めるようになってきている。これを表彰するシステムを創設したい旨、説明がされた。黒田武彦さんを支える会（黒田会）に集まった寄付 100 万円を原資とする。また、研究機関や大学に在籍する研究者は対象としない。候補者は十分にいるのかという質問がなされ、それは問題ない。受賞対象の線引きで、研究者を入れない趣旨はどうなるか。これは、研究機関に属する研究者はその立場だけで有利となるため。科学館はグレーゾーンであろう。以上の議論ののち、設立に向けて理事会が中心となって検討を進めることとした。

IV-2 「日本天文学会天文遺産」の提案について（資料 11、渡部）

日本には、暦学に絡んだ遺産が残されている。しかしながら一般への認知度は低く、あまり重要視されていないと感じる。学会が主導となって天文遺産の認定をするなどして歴史的に重要なものの保存にかかわっていくことが重要であろう。現在、IAU とユネスコ共同で、世界天文遺産事業が広がりつつあり、また山口県立博物館の松尾氏らによる目録作成も進められている。これに対し、史跡のみを対象にするのか機器も含めるのか、の質問がなされ、含むことが確認された。また、重要文化財登録などとの整合性はどのようにとるのかとの質問がなされ、現時点ではまだ検討されていないので今後検討していくこととした。以上の議論ののち、設立に向けて理事会が中心となって検討を進めることとした。

[資料リスト]

- 資料 1 代議員総会出欠表
- 資料 2 前回(2015年3月19日)代議員総会議事録確認
- 資料 3 2014年度監査報告
- 資料 4 IAU 報告
- 資料 5 2014年度早川幸男基金採択者リスト
- 資料 6 実務理事引継ぎ会合資料
- 資料 7 次期理事・監事・委員リスト
- 資料 8 公益社団法人日本天文学会 2014年度事業報告書（案）
- 資料 9 公益社団法人日本天文学会 2015年度決算書（案）
- 資料 10 日本天文学会天文教育普及賞の提案
- 資料 11 「日本天文学会天文遺産」の提案
- 配布資料 IAU 系外惑星系命名の現状と日本での活動状況報告

2015年5月31日

議長・署名人：櫻井 隆 印